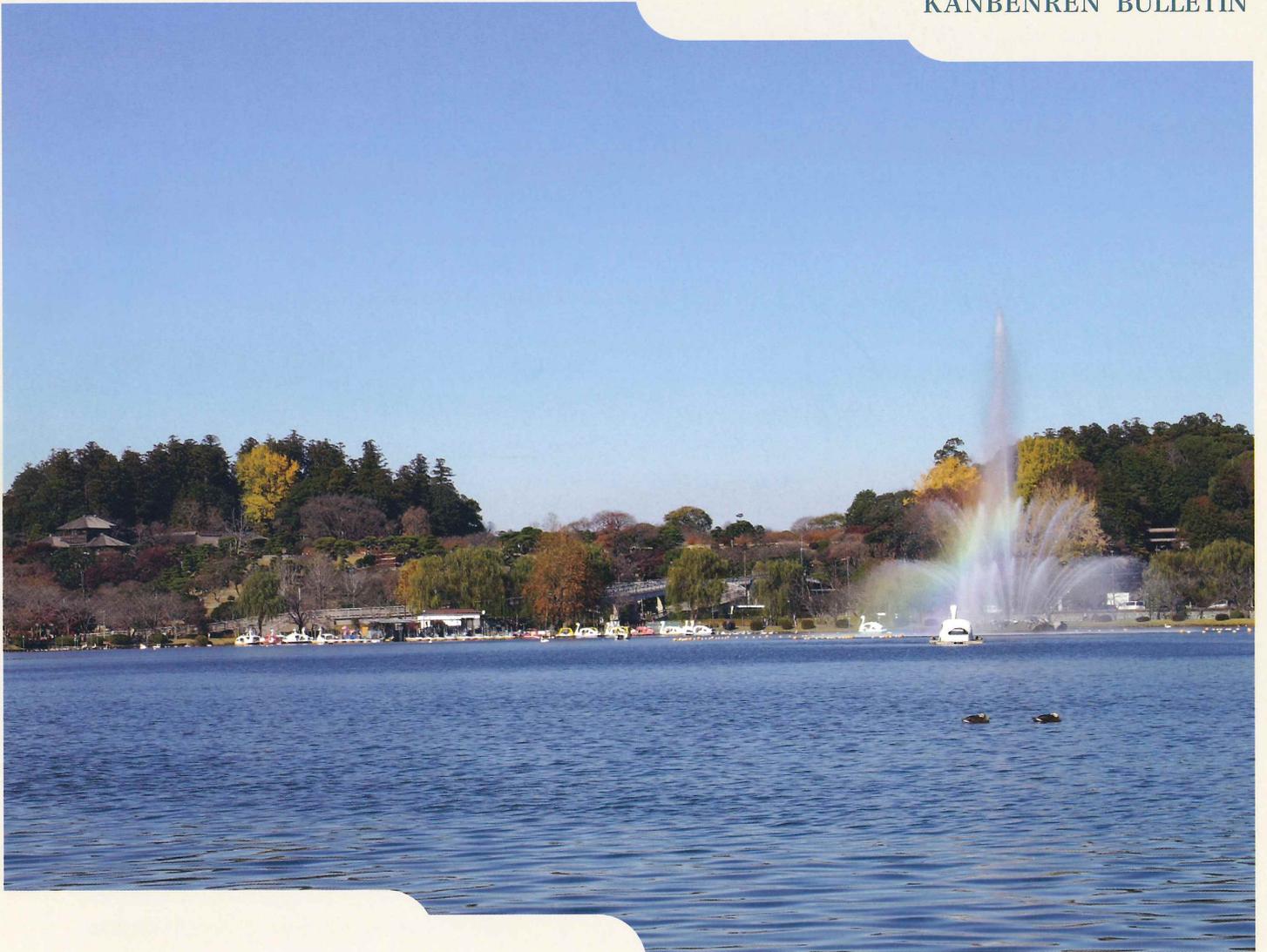


関弁連会報

通巻 105号

平成25年度
関東弁護士会連合会
KANBENREN BULLETIN



視点 若手支援についての取り組み
若手匿名座談会

会務報告

委員会活動報告

平成25年度法曹連絡協議会速記録

趣味・随想

海なし県での波乗りライフ

群馬弁護士会 上野 俊夫 (57期)

私が住んでいる群馬県は海に面していません。しかし、私は5年前(33歳の時)からサーフィンを始め、今ではサーフィンにすっかり魅了されています。私も当初はここまでサーフィンにはまると思っていませんでした。

きっかけは北関東自動車道という高速道路が開通したことです。この高速道路が平成21年に茨城県及び栃木県内で全面開通したことにより、私が住んでいる群馬県館林市から茨城県大洗市まで約1時間30分で行けるようになりました。そこで、妻と大洗まで遊びに行こうということになり、それならついでにサーフショップの体験サーフィンをやってみようと思ったのです。体験サーフィンをやってみたところ、波に乗る感覚が気持ちよく、サーフィンを本格的に始めたいとすぐに思い、そのサーフショップでサーフボードとウェットスーツを購入しました。そしてそれからは、茨城の海に通う生活となりました。

冬でも海に入ります。冬の海は人が少ないため波の取り合いが少なく練習がしやすいですし、冬の間サーフィンをしないとその間にサーフィンの感覚を忘れて技術が後退してしまうので、冬も継続してやっています。冬の茨城の海水は冷たいですが、最近のウェットスーツは進化しており、サーフィンをやっている間の寒さは案外平気です。ただ、海を出てウェットスーツを脱ぎ、上半身裸となったときには、寒さで歯がガチガチと鳴ります。

よく知らない人からすると、サーフィンはそれほどハードなスポーツには見えないかもしれませんが、実際にはかなりの体力を必要とします。サーフィンで良い波に乗るためには、沖に出る必要があります。沖まではサーフボードに寝そべって、両腕でクロールをするように水を掻いて出ます。海が穏やかな日はそれほど大変ではないですが、波が大きい時には沖に出るまで何回も岸へ戻されます。サーフィンは波が大きい方が練習になりますので、

サーフィンに適した海の状態、すなわち波が大きい時には沖に出るのも大変になります。全く沖に出られず20分近くこぎ続けたときもあります。20分もこぎ続けると息が上がります。また波が大きい時は否応なく海水をたくさん飲みます。肩が痛くなり腕がまわらず、一向に前に進みません。その横で若いサーファーや上級者が、自分を追い抜いて沖に出ていきます。それを横目に見ながら、海の中であがいていると、自分の無力さに情けなくなります。それでも沖に出られればよいですが、結局沖に出られず、諦めて岸に戻ることもありました。

このようにサーフingは一見遊んでいるだけのように見えますが、案外苦行が多いのです。しかし、このようなつらさがあるからこそ、「なにくそ。」と思ってより一層サーフingに駆り立てられるように感じます。

そして、良い波に乗りきった時の満足感というのは何とも言えません。何が良いのか説明することは難しいのですが、あえてサーフingの魅力を文章にすると、波の上を滑るときに足の裏に感じる波の感触のダイナミックさ、ライディングをしている際に自分の目の前に波が形成されていくその光景の美しさにあります。

良い波というのは記憶に残るもので、思い出に残っている波が何本もあります。その波のことを思い出すと、自分の故郷を思い出すような穏やかで幸せな気持ちになります。事件などで結果が出ず落ち込んだ時でも、自分が乗った波のことを思い出すと、「まあまた頑張ろう。」と思いつくことができます。

また、先ほど申しましたように結構ハードなスポーツですから運動にもなります。海に行かない日も身体を鍛えるため水泳などしていますので、それを含めると、結構な運動量になります。



気分転換になって運動の機会にもなるサーフingですが、サーフingの上達は下りのエスカレーターを上っているようなもので、上達をするためにはできれば週に一度くらいはやり続けることが必要です。

ところで、平日にサーフingをしに行くこともありますが、行くことが多いのはやはり土日です。子どもがいない頃には、私がサーフingに行くときは、妻は友人と遊ぶなどしていたので、一日中サーフingをしてきても問題はありませんでした。ただ、3年前に男子を授かったのですが、子どもが生まれたのにサーフingばかりしているとさすがに家族に愛想を尽かされてしまいますので、現在はサーフingに行っても昼くらいには帰宅するようにして、午後は子どもを公園に連れて行くなどし、家庭と趣味とを両立できるよう自分なりに工夫しています。

現在の目標は45歳までにインドネシアにあるGランドという島でブレイクする世界有数の大波に挑戦することです。そこでは、コンディションが良いときにはいわゆるパイプラインと呼ばれる形状の波が立ち、また何百メートルと滑走できる波も来ます。ただ、大波ゆえ波の力は強く、しかも浅瀬で海の底は岩礁となっているので、波に乗り損ね海面にたたきつけられると危険です。そのようなことから、そこでサーフingをする多くの人はエキスパートです。エキスパートがサーフingしても、毎日サーフボードが何本も折れると聞きます。45歳までにはあと7年ありますが、現在の自分のレベルを考えると、果たしてあと7年でその波に立ち向かえるかは怪しいところです。Gランドの波に挑戦するには、これから、技術も体力も、相当にというか、とんでもなく向上させなければなりません。しかし、何か目標があった方が練習の励みになりますし、巨大なもの未知なものに挑戦したいという気持ちもあるので、夢を実現できるよう技術と体力の向上を図っていこうと思っています。

40代、50代でもサーフingを始めることは可能ですし、実際その年代で始める方もいます。サーフingが自分のフィーリングに合い、継続できたら、素晴らしい世界を体験できます。もし、サーフingに興味を持っている方がいましたら、是非挑戦してみてください。